



本年10月22日に大和ふれあいセンター「シトラス」を会場に全国報徳サミット桜川市大会」が行われます。開催まで3か月を切り、全国のサミット関係者や市民の方々を迎える準備も着々と進めております。

今回でシリーズ3回目となるこのコーナーでは、市内にある二宮尊徳の関連史跡と市内小学校での授業の取り組みをご紹介します。

尊徳ゆかりの史跡

農民の子として育ち、一家離散に遭うが苦難を乗り越え、よく働き勉強した尊徳は、やがて多くの藩の仕法に着手し、村の建て直しを行いました。天保4年（1833年）尊徳47歳のときに青木地区を流れる桜川に堰を築きました。上の写真は、昭和26年に改築した現在の青木堰です。

■ 暎静山薬王寺（青木地区）の山門（左写真）は尊徳が築いた青木堰の木材を使い建てられた遺堰記念門です。



紅葉の時期には境内のモミジが色づき、薬王寺は多くの方で賑わいます。

■ 尊徳が修理した青木神社（写真左）とその境内には、これを記念して青木村名主館野勘右衛門が寄進した「手洗い石」があります。



手洗い石

■ 大國小学校にある、薬王寺山門と同じ青木堰の木材を使い作られた柱と金次郎像です。（写真左）



■ 明治30年、旧真壁、旧西茨城両郡の有力農民指導者と青木村一同で建立した頌徳碑（写真左）



小学校における尊徳についての学習への取り組み

大國小学校

4年生が社会科の「きょう土をひらく」の中で、桜川にせきをつくるという内容の学習をします。実際に青木堰を見学しながら尊徳がどのようにして何のために作ったのか、その後の変化などを学びました。



大國小 青木堰現地学習の様子

岩瀬小学校

5年生が総合的な学習の時間で青木堰を訪れ、郷土史家館野義久先生より、尊徳についての講話、また、青木堰の歴史や由来についての説明を受ける現地学習を行いました。



岩瀬小 青木堰現地学習の様子

■ 問合先／文化生涯学習課 報徳サミット事務局（☎2318521 真壁伝承館内）

これらの他にも市内には尊徳の偉業をたたえる史跡や個人所蔵の文書なども数多く存在しています。